

## ◆今期間のポイント

## &lt;主要じょう乱の概要&gt;

- 25日から26日にかけて、低気圧が発達しながら日本海北部からオホーツク海へ進み、26日に気圧の谷が日本付近を通過する。
- 25日から27日にかけて、高気圧が東シナ海から日本の南へ移動し、3月1日にかけて日本の南でほとんど停滞する。
- 27日から28日にかけて、気圧の谷が東シナ海から西日本付近にのびる。

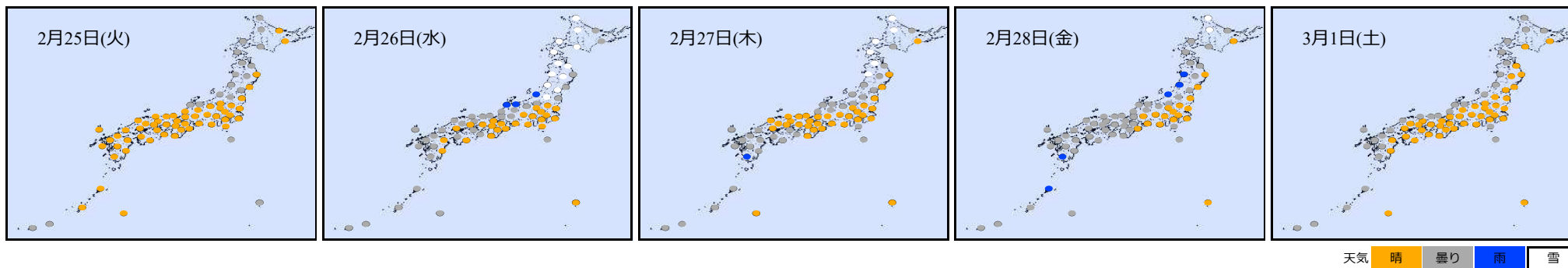
## &lt;防災事項&gt; 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 25日から26日頃は、北日本では日本海北部からオホーツク海へ進む低気圧の発達によっては、大荒れとなるおそれがある。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

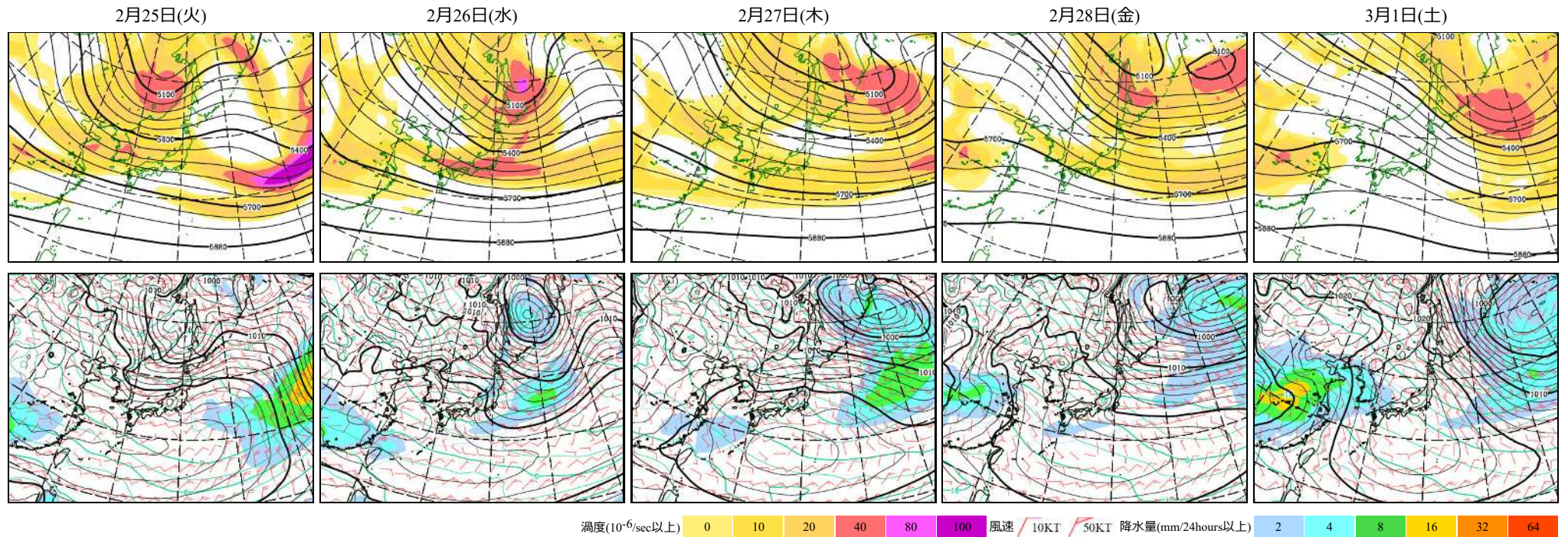
## ◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)



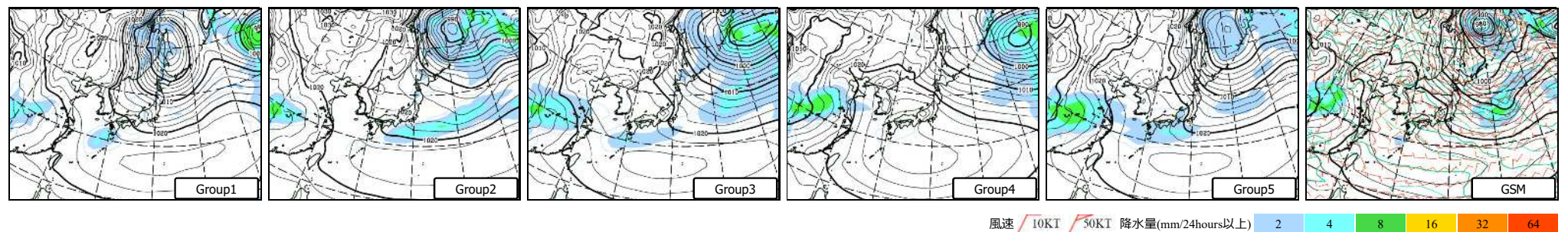
- 北日本と東日本日本海側は、曇りや雪または雨の降る日が多い。
- 東日本太平洋側と西日本は、晴れや曇りの日が多いが、27日から28日は雨の降る所もある。
- 沖縄・奄美は、曇りや晴れの日が多いが、28日は雨の降る所がある。



◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆2月28日のENSクラスター平均(グループ1~5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料 (ENS) は、25日から26日にかけて日本海北部からオホーツク海へ進む低気圧の勢力が強くなり、日本付近を通過して日本の東へ進む気圧の谷も明瞭となった。26日から3月1日にかけて東シナ海から日本の南へ移動する高気圧の動きが遅くなった。
- スプレッドは、期間の終わりは大きく、各特定高度線のばらつきが大きい。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。